

5年 わたしの地図活用

気仙沼市の漁業は今

宮城県公立小学校 教諭

1 はじめに

東日本大震災において、気仙沼市内に31か所ある漁港のすべてが大きな被害を受けました。造船所、水産加工場はそのほとんどが津波により流失しました。現在、国・県・市が協力し、日々復旧をめざして取り組んでいます。2013（平成25）年10月現在、漁船は7割、養殖施設は9割程度が復旧しています。漁港は「海と生きる」を合言葉に、災害に強い漁業地域づくりを推進し、震災前以上の生産高を目標としています。

復旧への取り組みは、上記のほかにも、漁港や水産加工団地、魚市場、造船施設の整備、気仙沼ブランドの確立（トレーサビリティ・HACCP*の導入）と多岐にわたっており、震災から立ち直ろうとしている今ならではの取り組みを調べることで、水産業に従事する人々のくふうや努力について効果的に学習できるものと考え、授業実践を行いました。

2 地図帳の活用と学習課題の設定

授業の導入では、『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』（以下、地図帳）p.44「②気仙沼付近の漁業のようす」から、地形と海洋の利用に着目し、気仙沼湾は大島があることにより入り江が長くなっていることを読み取るとともに、養殖いかだがたくさん設置されていることを読み取りました。養殖いかだがたくさん設置されている理由を考えさせると「波が静かで作業をしやすいから」というこ



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.44
②気仙沼付近の漁業のようす

とがあげられました。また、大川や面瀬川などの川の流れから養分の豊富な水が海に流れ込んでいるのではないかとこの予想を立てることができました。

次に、地図帳p.73掲載の統計資料（2010年のデータ）を活用し、気仙沼市の主要産業は水産業であり、宮城県は全国2位の漁獲量であったことをとらえさせました。

そのうえで、帝国書院のホームページに掲載されている2011年の統計を提示し、宮城県の漁獲量が9位に下がっていること、また、

統計資料 日本 農業・漁業・林業
漁業生産量(漁業・養殖業) 【2011年】(概数)

出典：農林水産省HP

県コード	県名	(t)
01	北海道	1,306,866
02	青森	161,562
03	岩手	84,251
04	宮城	144,932
05	秋田	10,006
06	山形	7,799
07	福島	51,606

帝国書院ホームページ 統計資料
「日本 都道府県別統計」 URL <http://www.teikokushoin.co.jp/statistics/japan/index.html>

*HACCP：食品を製造する際、危害を除去する工程を継続的に監視・記録する、国際的に認められた衛生管理の手法。

気仙沼市発行の統計資料から「最近10か年の水揚高の推移」を提示し、2011（平成23）年は水揚高が激減していることを示しました。

児童は、これらの変化は東日本大震災によるものであること、グラフから2012（平成24）年は震災以前の半分まで水揚高を回復させていることに気づきました。この気づきから「復旧していく気仙沼の水産業について調べよう」という学習課題を立てました。

3 復旧への取り組みについて調べる

学習課題を追究するため、水産業の復旧に必要な取り組みについて考えさせます。児童は話し合いから調べる内容を次の5点に絞り込みました。

- ① 漁船や漁具を増やす
- ② 水産加工場や冷凍庫をつくる
- ③ 養殖施設や養殖漁具を増やす
- ④ 魚市場を整備する
- ⑤ 漁港を整備する

復旧・復興事業に関する資料は市のホームページから膨大な情報を得られるのですが、取捨選択の段階から児童に行わせるのは時間がかかり、使われている言葉も児童にとっては難解なものが多く、理解が困難です。本実践では、気仙沼市で発行している資料から上記の5点に関係するものを指導者が事前に選びだし、分類して児童に提示、活用させました。さらに、市役所水産課の職員にインタビューした内容を文章化し、資料として提示しました。

調べ活動は五つの内容をグループごとに調べました。関係した資料を読み取りながら課題を追究していきます。

「漁船は7割も復旧してるんだ。」

「すごい、養殖の復旧は9割だって。」

と、漁船や漁具の復旧率に驚いていました。

また、水産加工場集積の計画を初めて知り、「国や県から4分の3も補助が出るんだ。」

「入りたいのに入れない事業者もいるんだって。」

と、国や県、市による補助に驚くとともに、市の抱える問題にも気づいていました。

発表は、図や表をプロジェクトで投影して説明を進めました。漁港の整備に関する発表では、住宅を高台に集め、作業を行う漁港からは安全な避難経路を確保するという計画が、市内38地区で行われようとしているという発表内容に、聞いている児童も驚き、その数の多さから、町をつくりかえていくことを実感していました。

復旧後、輸出を視野に入れている魚市場の整備についての発表では「気仙沼ブランドを確立する」という言葉に、市全体で取り組んでいることを感じていました。

復旧への取り組みを調べたことで、とる（育てる）、流通する、加工する、販売するという水産業の一連の流れを総合的にとらえることになり、漁業に従事する方々、水産加工に従事する方々、行政関係の方々、それぞれについて考えさせることができました。

4 おわりに

気仙沼市は、生活、産業ともにまだまだ復旧途上ですが、さまざまな方面からの協力により回復に向かっています。また、水産業の業績を震災前のもの以上にのばそうと、市をあげて努力しています。本実践では、震災からの復旧に取り組む気仙沼市の水産業の姿を通して、日本の水産業の姿をとらえさせることができたと考えます。